



いなほ

稲積神社社報

第39号

平成25年 大祭号



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

ご遷宮を迎えて

宮司 根津泰昇

伊勢神宮では平成十六年に天皇陛下より御聴許いただいて、第六十二回神宮式年遷宮の準備に取りかかりました。

まず最初の神事は平成十七年に、ご用材を伐り出すにあたり山の神に安全を祈る山口祭やまぐちまつりが斎行されました。

その後幾多の神事が斎行されました。その中、平成十八年・十九年には国民が「一日神領民」として参加できる「お木曳きひひき」行事が実施され、御用材を揃いの法被姿で両宮（内宮・外宮）に曳き入れる盛大な行事は、ご参加された方々には記憶に新しいと存じます。

後には鎮地祭ちんちまつり（地鎮祭に相当します）、宇治橋渡うじはしわたり始式しじしき、上棟祭等々が斎行されました。

本年八月十七日・十八日には「お木曳」行事と同じく国民が「一日神領民」として参加できる「お白石おしろい持ち」行事が行われます。この行事は、完成した真新しい御正殿の御敷地に「お白石」を奉納する行事です。

天皇陛下より御治定遊ばされ、遷御が本年十月二日皇大

神宮、十月五日に豊受大神宮で午後八時より斎行されます。

遷御は、式年遷宮の中核をなすおまつりです。前回の六十一回の遷御に参列の栄を賜わった時を振り返れば、淨園の中、大御神は本殿を出御、奉仕者が御神宝等を手に付き従え、新殿へ入御されました。

その荘厳な儀式に身震いを感じたことが思い出されます。

式年遷宮の式年とは二十年に一度定まった年に行うことをさします。また遷宮とは、諸殿舎を造り替え、尚且つ御装束神宝の一切を新たに作りし、新しい正殿の神座にお遷り願うことです。この一連を式年遷宮といえます。

出雲大社のご遷宮は大凡六十年に一度行われますが、本年五月十日に遷御が斎行されます。当神社の根津権禰ねね宮が祭員の栄を受け、ご奉仕をお務めいたします。

当神社でもご鎮座四百年奉祝事業の折、遷座祭を平成十三年に斎行致した経緯がございます。

神様をお遷しする祭りは重

儀であります。年を重ねて積み重ねてきた大気、息吹、目に見えなくも、何かに感じている神気、この様な不思議な力が遷宮、遷座のまつりで一段と高揚されていくのは、人々が神を敬い、思いを捧げる姿勢があればこそ感じます。

より一層ご神力が高められた、伊勢神宮、出雲大社に参拝し、より深いご神徳がお授かりになりますことを願っております。

当神社では、両ご遷宮を奉

祝しご神木の根幹で傾きだした神札所兼ねて社務所と神輿庫兼ねて神楽殿を建築いたすことになりました。

神輿庫兼ねて神楽殿は、境内の西側に位置しますので、神宮、出雲大社の遥拝所ちよはいじよ（はるかに遠い所から拝む場所）の施設も兼ねる計画をしております。

経済低迷の時ではございますが、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。

稲積神社崇敬者の皆様には、常日頃当神社にご理解、ご協力を賜っており、ますます事に厚く御礼申し上げます。

現在の神札所兼ねての社務所は、四十二年前に新築されて以来修復、改築を行ってまいりましたが、ご承知の通り「御神木」の根元に、神札所兼ねての社務所が建てられておりますので、根幹によって建物が傾き危険な状態となり、建て替えを余儀なくされております。

平成二十一年に天皇陛下ご即位、二十一年奉祝記念事業

祝しご神木の根幹で傾きだした神札所兼ねて社務所と神輿庫兼ねて神楽殿を建築いたすことになりました。

神輿庫兼ねて神楽殿は、境内の西側に位置しますので、神宮、出雲大社の遥拝所（はるかに遠い所から拝む場所）の施設も兼ねる計画をしております。

稲積神社総代会長 小尾 武

祝しご神木の根幹で傾きだした神札所兼ねて社務所と神輿庫兼ねて神楽殿を建築いたすことになりました。

神輿庫兼ねて神楽殿は、境内の西側に位置しますので、神宮、出雲大社の遥拝所（はるかに遠い所から拝む場所）の施設も兼ねる計画をしております。

経済低迷の時ではございますが、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。

稲積神社崇敬者の皆様には、常日頃当神社にご理解、ご協力を賜っており、ますます事に厚く御礼申し上げます。

現在の神札所兼ねての社務所は、四十二年前に新築されて以来修復、改築を行ってまいりましたが、ご承知の通り「御神木」の根元に、神札所兼ねての社務所が建てられておりますので、根幹によって建物が傾き危険な状態となり、建て替えを余儀なくされております。

平成二十一年に天皇陛下ご即位、二十一年奉祝記念事業

祝しご神木の根幹で傾きだした神札所兼ねて社務所と神輿庫兼ねて神楽殿を建築いたすことになりました。

神輿庫兼ねて神楽殿は、境内の西側に位置しますので、神宮、出雲大社の遥拝所（はるかに遠い所から拝む場所）の施設も兼ねる計画をしております。

厳しい経済環境の時ではございますが崇敬者各位にはこの趣旨にご理解いただき、御浄財のご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

正ノ木例大祭式次第

- 定刻 手水の儀 参進
- 次 修祓の儀
- 次 宮司一拝
- 次 宮司御屏を開く
- 次 禰宜以下神饌を供す
- 次 宮司祝詞を奏す
- 次 献歌（正ノ木さんの歌）
- 次 玉串拝礼
- 次 撤饌
- 次 宮司遷御の祝詞を奏す
- 次 遷御
- 次 宮司発御の祝詞を奏す
- 次 宮司一拝
- 次 発御

平成二十五年正ノ木例大祭神賑行事（予定）

- 五月二日(木)
- 献木祭 午前十時
- 甲府商工会議所（境内） 午後五時（社殿）
- 前夜祭 飯野のり歌謡ショー
- 三日(金)
- 大祭 午前十時
- 御輿渡御 午前十一時〜午後四時
- 奉納相撲 午前十一時〜
- バザー 午後十二時〜
- 田代ひばり歌謡ショー
- カラオケ大会 午後六時〜
- 四日(土)
- 二ノ祭 午前九時
- 五日(日)
- 三ノ祭 午前九時
- 成戴祭 午後五時

稲積神社献木祭の由来

稲積神社が所蔵する文献によると、献木の記録は昭和八年からあり(それ以前は不明)、

甲府商工会議所が組織した稲積神社奉賛会が甲府市の繁栄をもたらそうと奉賛特売市を甲府市で一斉に挙行し、甲府市の商工業振興祈願のご神木として毎年献木することから始まりました。また、稲積神社の崇敬・美化(当時神社仏閣は正に神格的な存在)のため、毎年ご神木を奉るとも記されています。

戦時中の一時期は中断を余儀なくされましたが、戦後すぐ献木が始まり、昭和二十一年の山田新太郎第九代会頭時代からは、これまでの商工業振興祈願から、戦火で焼け爛れた甲府市に美しい緑を取り戻す、ということに主眼が置かれるようになりました。

昭和二十四年のみ、甲府商工会議所から継承された形で、甲府芸子組合と甲府消防組が行い、戦後の復興、神社の再建、甲府市の繁栄を祈願しました。

現在では、早期景気回復という意味合いが強くなっていますが、いつの時代も一貫し

ている主旨は、「甲府市の商工業の振興・発展」と言えます。

甲府商工会議所と献木祭とのつながり

衣食住生活のすべてを司る神を祀る稲積神社と、人々の生活と密接に関係する産業界を統括する甲府商工会議所とは、昭和八年当時から甲府商工会議所歴代会頭が稲積神社奉賛会の会長を務めるなど、献木祭を通じて当時から深い関わりを保ち続けています。

近年は、甲府商工会議所関係者のほか、甲府市観光協会、甲府商店街連盟なども関わるようになり、稲積神社正の木祭りの一環の神事として植樹祭を行っています。

(甲府商工会議所より 抜粋)



祈念祭齋行される

本年の祈念祭は恵方参り旅行と重なった為に、七時から齋行された。恵方参りの参加者も六十名程参列されて、賑々しく厳粛に行われた。

この祈念祭の本義は、その年の農耕が始まるにあたり、五穀豊穡を祈る祭りであります。十一月行われる、新穀に感謝する「新嘗祭」と対になる儀式であります。

近年は五穀豊穡だけでなく国民の健康と幸福、企業の繁栄、国家の安泰をも祈願するようになり、その内容の祝詞が御神前に奏上されます。

伊勢神宮を始め全国の神社で齋行されています。

お米は私達の命の根源でありますので、今日も五穀豊穡、産業振興を願い、日本の伝統を引継いでいる神事です。



恵方参りの旅

恵比寿神社敬神婦人会 石原文子



二月十七日、十八日恵方参り南南東にあたる下田に向かいました。精進湖線・東名・伊豆中央道を通って、浄蓮の滝に。つづいて行った河津ではまだつぼみも堅く、促進剤を使っただけという二本だけは七分咲きでした。こんなこともできるのだ、と驚きました。

下田ビューホテルの夕食後は皆様の多才な芸で楽しませていただきました。

二日目、早朝より友達と浜辺に、一昨年は同じ下田の海からの日の出に感激しましたが、この日は雲が厚く見られませんでした。そのうちに雨が降り出し、ホテルを出発するときには大雨に。下田八幡神社にて正式参拝をしました。

宮司さんより神社についての話を伺いました。八月の下田八幡神社例大祭は江戸時代にこの地域の奉行を務めていた今村伝四郎正長公が下田の民のために始めたという歴史ある太鼓祭りだということでした。

下田八幡神社を後にし、下田駅より伊豆急行リゾート21に乗って伊豆高原駅へ、約五十分、快適な電車でした。途中天気が良ければ大島など島々を見る事ができたらいいのですが残念でした。

バス二台での旅、皆様がこの一年を無事に過ごす事ができますようにと、祈りながら帰路に着きました。ありがとうございました。



境内社例祭

節分祭

二月三日に齋行。

兼務神社の千塚八幡神社では、十一時に神事が仕えられ、後に豆まきが行われ、福に授かろうと大勢の氏子の方々に賑わいました。

稲積神社は、午後五時に神事が、後に総代、年男年女、厄年でお申し込みをいただいた方々によって当たり付き福豆、多くの品々がまかれました。今年の日曜日でしたので、例年になく大勢の方々にご参集いただきました。

祭典後は参集殿に場所を移し、直会が開かれ参列者同志懇親が図られました。



猿田彦社例祭



立春後の庚申の日、二月二十三日に齋行。

ご祭神の猿田彦大神は道を司る神で、万事善方へ「おみちびき」になられるご神徳もあり、交通安全車禍所横に祀られています。

交通安全祈願祭では、ご本殿の御前で祝詞を奏した後に猿田彦社の御前でお車の清め式を行っております。

猿田彦大神は別命、佐田彦神とも呼ばれ、稲荷神として祀られています。

甲子社例祭

きのえね

立春後の初の甲子の日、二月二十七日に齋行。

ご祭神は大国主大神で、甲は十干（甲乙丙丁……）の冒頭の甲、子は十二支（子丑寅卯……）の冒頭の子で、六十日毎に甲子の日は巡ってきます。

ご神徳は、甲子祭りをすることにより、息吹の再生と生氣興隆（エネルギーの増進）が授かります。

お砂取り、お石取りにより方位除、生氣興隆のご神徳もあります。

天満天神社例祭



三月二十七日に齋行。ご祭神は菅原道貞公で、（京都北野天満宮から勧請された）と伝えられています。（学業上達、合格にご縁のある社であります。この社は唯一戦災で焼失せず現存するもので、江戸時代に建てられたものです。

年頭から受験シーズンは、受験者のお参りで賑わいます。

本年の甲府伊勢講の千社詣での旅は、北野天満宮の正式参拝をいたします。千社詣の盛会を願い、伊勢講の世話人の方の参列がございました。

旅程は十一月で紅葉も見頃

熊野社例祭

三月二十七日に齋行。（本来は二十六日が例祭日です。）

ご祭神は須佐之男命で例祭日の所以は平成十二年三月二十六日に島根県に鎮まります熊野大社より神魂をお領り賜ったことよりきています。

三月下旬と言えども身が引き締まる寒さであり、当時の千家達彦宮司様（現在出雲大社教官長）自らご奉仕賜りましたことが、先日の出来事のように思いだされます。



だと思われます。詳細は七ページに掲載されています。

稲荷 正の木 稲積神社の御神魂 おみたま
 静岡県三島市の小坂家邸内社に鎮座

三島市の中心街で時計、メガネを扱う「小坂」を経営されている小坂有司様の敷地に、当神社の御神魂が鎮座されました。

経緯は、小坂家に隣接する土地を購入する際、持ち主より、永きに渡りお守りいただいた邸内社を引き続きお守りして欲しいと切望があり、当主の小坂有司氏はこの要望を心よくお引受になりました。

ご祭神は、山梨県の稲積神社が祀られている旨を伝えられました。さっそくご夫婦で当神社にお越しになりましたのが平成二十三年の夏のことでした。今後の再建について



ご相談をさせて頂きました。その結果現状の邸内社を修理し、鳥居を新設し、周囲に樹木を植樹することが決まり、平成二十四年二月に完成し、遷座祭が斎行されました。毎年、例祭日を三月十六日と定め、今年の例祭を斎行いたしました。

小坂有司様の手紙文より抜粋
 毎日手を合わせるこの大切さをお教えていただき、家族の気持ちが変わりました。ご先祖様と共に私達家族の一員として、未長くお守りいたします。

境内の桜

三月二十四日開催した正の木祭実行委員会終了後、実行委員の皆様と境内の桜の木の下の花見をいたしました。予定では、花の下で花見の宴を催すつもりでしたが、当日はあいにく午後から雨の予報により、参集殿に於いての宴となりました。

毎年々の春、美しく花を咲かせ、春風に花吹雪を撒き散らすその姿は雄壮で、日本の春の象徴そのものでした。老木となったこの桜は、蝕

まれ朽ちはじめたため、今回の神札所建築により代採されることになりました。誠に寂しい気持ちでなりませんが、この桜の木を、花を



いつまでも暇にとどめ、大切に心に残しておきたいと思えます。



第三十回ゴルフコンペ 開催される

本年は神宮式年遷宮、出雲大社平成の大遷宮が挙行される慶節の年でございまして、従来の時期が非常に立て込んでおりますので、年度末の忙しい時期の開催となりました。三月二十六日にグリーンパレーにて行われました。肌寒い一日ではありましたが、風も無く、コンディションとしてはまずまずの天候の中、和氣舘舘と楽しい一日を過ごしました。

夕刻より表彰式、懇親会を当神社の崇敬者であります治作館さんに於いて行い大いに懇親を図り、秋のコンペでの

活躍を誓い合いました。

神社庁役員就任報告

- 宮司 根津 泰昇
- 山梨県神社庁庁長に就任
- 責任役員 小尾 武
- 山梨県神道政治連盟 副本部長に再任
- 権禰宜 土肥 東宮
- 山梨県神社庁報委員に就任
- 権禰宜 篠原 康正
- 甲府支部理事に就任
- 権禰宜 根津 佳明
- 山梨県神道青年会副会長に再任
- 山梨県神道青年会六十五周年実行委員長に就任
- 崇敬青年会 鶴田 勇雄
- 山梨県氏子青年協議会相談役に就任
- 崇敬会いなほ会長 佐藤 久良
- 山梨県氏子青年協議会 名誉顧問に就任

訂正

新年号で甲府伊勢講講元の河崎久弥様が川崎久弥様と誤りがありました。訂正しお詫び申し上げます。

金華山・黄金山神社 復興支援活動と現状報告

権禰宜 根津 佳明



山梨県神道青年会で企画し、平成二十五年二月二十五日、二十七日にかけて「金華山復興支援活動」と題し、宮城県石巻市の牡鹿半島先端の沖にある金華山という島の黄金山神社へ行ってまいりました。

初日は甲府を朝出発、石巻市へ夕刻到着し、食料や日用品などの支給品を調達しました。その後、暗くなつてしまいました。その後、暗くなつてしまいました。その後、暗くなつてしまいました。

翌日は八時半にホテルを出発、九時の船にて金華山へ渡り、到着次第「正式参拝」を行っていた、いただきました。正式参拝が終え一息つく間もなく十時半より復興支援活動へととりかかりました。今回の活動は金華山山頂にある奥殿（奥ノ院）大海祇神社（おおわだつみじんじや）が地震により半壊しており、改修工事をするための木材運搬作業となりました。登りがけわしい獣道となつて



いるため重機での運搬が出来ないので人力での運搬作業となりました。

今回の復興支援活動は重労働でしたが、体を使うことで黄金山神社の大神様のお役に立つことが出来、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。また、まだまだ震災の爪痕が残る東北の現状を知ることが出来ました。私たちに出来ることは限られていて、支援活動も大事ですが、忘れずに伝えていくことが大切だと感じる事が出来ました。この度、稲積神社の代表として参加させていただいたことに感謝を申し上げ、納めとさせていただきます。

伊勢神宮第62回式年遷宮参拝と秋の京都散策・北野天満宮参拝の旅

稲積神社甲府伊勢講
第48回千社詣での集い

- ◆旅行予定期日：平成25年11月19日（火）～21日（木）2泊3日
- ◆旅行代金：59,000円 ◆募集人員：200名（最少催行160名）
- ◆利用予定ホテル：琵琶湖温泉 琵琶湖グランドホテル別館京近江（11/19）
鳥羽 戸田家（11/20）

月日曜	行 程	食事
11/19 (火)	甲府各地 —— (中央道・名高速) —— 北野天満宮 <small>（正式参拝）</small> ・もみじ苑 —— <small>5:00～6:00頃</small> 京都市内ご昼食 —— 東山周辺自由散策 <small>（知恩院・青蓮院・祇園等）</small> —— 琵琶湖温泉 <small>16:30頃</small>	朝一 昼○ 夕○
11/20 (水)	宝泉院・実光院等、紅葉の名所を自由拝観 ※ご昼食 ホテル —— 大原・三千院拝観 —— 石山寺 <small>（自由拝観とご昼食）</small> —— <small>8:30</small> —— (新名神・伊勢自動車道) —— 伊勢神宮・豊受大神宮 <small>（外宮）</small> 御垣内参拝 —— 鳥羽 <small>16:00</small>	朝○ 昼○ 夕○
11/21 (木)	旅館 —— 大漁水産 <small>（お買物）</small> —— 伊勢神宮 <small>（内宮）</small> 御垣内参拝・御神楽奉納 <small>8:00</small> —— 岩戸屋・おかげ横丁散策 —— (東名阪・東海環状・伊勢湾岸・中央道) —— 甲府各地 <small>19:00頃</small>	朝○ 昼○ 夕○

ご祈願のご案内

安産祈願

妊婦さんが妊娠五ヶ月目に入った最初の戌の日に参拝されるとよいとされています。

「戌の日」とは十二支の十一番目にあたる日です。犬はたくさんの子を産み、お産が軽いことから、安産の守神として、人々に愛されています。それにあやかって、「戌の日」に、妊婦さんが腹帯を巻いて安産をお祈りするご祈願を受けることにより、ご神徳を授かるとされています。



初宮参り

子供が生まれて初めてお宮参りすることで、子供の誕生の報告と健やかな成長を祈願

する儀礼です。男子は三十一日、女子は三十三日目に行うのが通例ですが、その近くの良い日を選ぶこともよいでしょう。

当神社の境内社きのえね甲子社のご神徳にあやかり、「歯がための石」があります。この石は「お食初め」の儀式の折お盆に載せ、堅固な丈夫な歯が生えるのを願う石です。

初穂料 一万円以上 お食初めセット 六千円 お食初めセット 小

交通安全・車清式

愛車を購入した際に運転者・同乗者の安全と安心を祈願するのが交通安全祈願・車清め式です。

当神社では、交通安全祈願は御本殿の御前におきまして車の購入の報告と、運転が安全にできるように願う神事が齋行されます。

次に車祓所に鎮まります猿田彦社の御前にて、車が走る先々で災事がないよう、又車の隅々を祓い清める車清式を齋行いたします。

交通安全祈願・車清式は、購入時に限らず年一度のお祓いされるのも結構でしょう。



祭典予定

- 六月 二日 御田植祭
- 三十日 夏越大祓式
- 七月 十五日 瘡子社例祭
- 十月 六日 金刀比羅神社例祭
- 六月 六日 抜穂祭
- 十一月二十三日 新嘗祭
- 十二月三十一日 年越大祓式
- 毎月一日月次祭 十時
- 毎月三日月次祭 八時半
- 毎月十五日 神恩感謝祭 八時半

第62回式年遷宮特別企画

国宝・重文160件
神社パワー全開!

国宝

大神社展

東京国立博物館

ごあんない

- ◆旅行予定期日：平成25年5月25日（土）
- ◆旅行代金：お一人様 7,500円
- ◆募集人員：100名（最少催行人数80名）

月日曜	行 程	食事
5/25 (土)	甲府各地 7:00 —— (中央・首都高) —— 東京国立博物館 大神社展 —— 7:00 2011年リニューアルオープン!! —— 湯島天神自由参拝 —— NHKスタジオパーク —— 甲府各地 18:00頃	朝一 昼○ ター

第六十二回神宮式年遷宮
出雲大社平成の遷宮奉祝記念事業

神礼所兼ねて社務所
神輿庫兼ねて神楽殿
新築趣意書

崇敬者各位には、常日頃当神社のことにつきまして、ご理解、ご協力を賜っており、誠にありがとうございます。

さて現在の「神礼所兼ねて社務所」は昭和四十六年に新築し、以来二度の修復、改築を進めて現状の建物となっております。

現状の神礼所兼ねて社務所は、ご承知の通り「御神木」の根元に建築されており、根幹によって建物が損傷し尚且つ傾き出しましたので、建て替える余儀なくされております。

平成二十一年には天皇陛下ご即位二十年奉祝記念事業として宮神輿を新調致しました。当時から念願であり、神輿庫兼ねて神楽殿の新築も計画致しました。

平成二十五年には斯界が本宗と仰ぐ伊勢神宮の第六十二回式年遷宮が行われます。又当社の境内社の甲子社・瘡子社に祀られている御祭神「大國主大神」の本社である出雲大社では六十年に一度の平成のご遷宮が五月に斎行されます。本事業を両遷宮の記念事業として推進いたしたいと存じます。

世相は経済低迷の時期ではございますが、崇敬者各位にはこの趣旨にご理解いただき、御浄財のご寄進を賜りますようお願い申し上げます。

- 概要
- 一、予算 二千五百万円（二千万は神社、総代で拠出）
 - 一、工期 平成二十五年五月より平成二十五年十二月
 - 一、募金期間 平成二十五年一月から平成二十七年三月迄
- 平成二十五年一月吉日

稲積神社宮司 根津 泰昇
 建築実行委員長 小尾 武
 建築実行委員 一同

奉 賛 謝 意

奉賛金額	感謝状	御芳名刻印	竣工祭案内
五千万円以上	○	○	○
壹千万円以上	○	○	○
伍百万円以上	○	○	○
参百万円以上	○	○	○
伍万円以上	○	○	○
拾万円以上	○	○	○
貳拾万円以上	○	○	○
参拾万円以上	○	○	○
五拾万円以上	○	○	○

神礼所兼ねて社務所完成予定図



神礼所兼ねて社務所
新築計画

神輿庫兼ねて神楽殿完成予定図



神輿庫兼ねて神楽殿
新築計画